

建築デザインⅡ

【共通テーマ】

Transform

—都市施設のデザインのクリシエを越える—

都市施設のデザインが既成のプログラムやパラダイムの中でのみ考えられているために、非常に陳腐なものになってしまっている。これは、そういう施設が行政の実例主義にもとづいて策定されたプログラムや、縦割り行政によって執行されていることに起因しているといえる。都市公園や道路及びその付属施設のデザインはいうに及ばず、新幹線の駅舎、地方の空港建物、ゴミ処理場などは、日本中どこに行っても同じデザインにしか遭遇しない。また教育文化、社会福祉施設は類型化され、「資料集成」をそのまま建築にしたような紋切り型の建築が多い。しかし21世紀を間近に控えた現在、多様な価値に対応できる都市施設が求められていて、結果としてその建築デザインにクリシエ (Cliche) を越えた変容 (Transform) が期待されている。それは視点を変えたプログラムの再構築とか、建築、土木、ランドスケープというジャンルを越えたデザインとか、環境問題を考え、エコロジカルとかサステイナブルな建築を志向するといったことによって成就されるのではないだろうか。このような趣旨のもとに都市施設のデザインの〈Transform〉を求めたい。建築が成熟した社会の文化遺産となりうるために……。

担当＝高宮 真介

(P.78)

【課題】

清掃工場のTransform

—トランスプログラミングとランドスケープデザインをとおして—

21世紀の大きな課題としてゴミ問題がある。そのひとつはゴミの減量化であり、もうひとつはいかに安全にゴミを処理・処分できるかということにある。特にゴミの処理施設(焼却施設)は、運搬の都合上都市部に計画されることが多く、これまで公害発生源の迷惑な都市施設として、いつも住民の反対運動の対象となってきた。それに配慮し

てか、近年その建築は高価な材料で覆ったり、宮殿風のメタフォアまで出現する事態となり、恰も内部の情報を隠蔽しようとしているかに見える。しかしゴミの焼却処理のプランは日進月歩であり、近い将来公害防止技術によって、環境保全が十分に図られることが予想される。現時点においても悪臭、騒音、汚染水はもちろんのこと、ダイオキシンも当然規制値以下に押さえられうるし、焼却灰は灰溶融をとおしてスラグとなり再利用されるようになってきている。このように、もし本当に安全性の高い都市施設となりうるものであれば、他の生活関連施設のように、建築としても新しい発想のもとに質的転換が図られ、既成概念のゴミ処理施設からの変容 (Transform) が期待される。

以上のような背景を理解したうえで、ある地方自治体が実際に計画している清掃工場(ゴミ処理場)を取りあげ、次のような方法により、新しい形の清掃工場の提案を求めたい。

- 1) 清掃工場の機能を隠蔽することなく、情報を開示する意味で積極的にオープンな施設とすること。
- 2) 全く異質なプログラムからなる施設を併設し、そのトランスプログラミングによって新しい都市施設としての可能性を探ること。
- 3) 清掃工場の敷地全体を、市民に開放できる都市公園としてランドスケープデザインを行うこと。

担当＝小泉 雅生

(P.79)

【課題】

都市の中の結節点

—「駅」を考える

都市には道路、鉄道、地下鉄、運河などの様々な種類の都市内交通がある。これらの移動手段は都市の中に線形にのびる「線状の空間」を形成する。この移動のための線状の空間に対し、「駅」や「ジャンクション」と呼ばれるそれらが分岐したり交差したりするポイント—「結節点」が存在する。ここで人々は移動の速度と向きを変え、別の線状の空間へとシフトする。これらの結節点は都市の中で機能的な側面はもとより、シンボリックな意味合いからも極めて重要な役割を果たしているにも

かわらず、その空間的な可能性について十分な議論が行われていないのではないだろうか。各地の駅前再開発事業でつくり出される直直なペDESTリアンデッキや駅ビルを見れば、それは明らかである。

ここで、この人の動きの節目となるポイント—「結節点」と、そこへ至る「線状の空間」を都市の中でどう位置づけるのか、思考を深めていきたい。「結節点」と「線状の空間」は素朴に鉄道駅と駅前商店としてとらえてもよいし、駅ビルとその中の地下鉄やエレベーター、あるいはそれらが複数絡み合ったものとしてもよいだろう。移動時の速度の違いを考慮に入れることも必要かも知れない。この課題は、結節点とそこへ至る経路を対象として空間の可能性を探る、新たな「駅」と駅周辺の設計である。

担当＝水谷 碩之

【課題】

建て替えが検討されている公営住宅団地での集合住宅と地域に開放された施設の提案

戦後の住宅政策により建てられた公営の住宅団地は、今、大きな問題を抱えている。2DKを中心とした住宅の狭さや、仕上げ、設備機器の老朽化は言うに及ばず、新築時に入居した世代構成が似通っていたために全体的に高齢化が進み、地域のコミュニティに様々な問題をもたらしている。一方、敷地全体の配置計画は画一的ではあるが、民間の集合住宅に比べ隣棟間隔が確保されていること、樹木が大きくなったことなど、外部環境としては恵まれているとも考えられる。ただし現状は、外部空間が駐車場になっているケースもあり、充分生かされていない。これらの現状を調査・分析することで、持続可能な社会ストック型住宅のあり方についての方向性が明確になるであろう。

このような背景を考慮したうえで、新たな集合住宅と地域に開放された施設の提案を求めたい。計画敷地は都区内のあまり大きくない公営団地を設定したい。候補地としては、京王線芦花公園駅に隣接した住宅公園の団地(現在建て替えについて周辺住民を含め、アンケート調査がされている)を考えている。

建築デザインⅠ

【共通テーマ】

再生

(建築の再生・空間の再生)

建築はそれぞれの時代の多大の資源とエネルギーを費やして作られるが、現代社会は生活の変化が激しく、機能的耐用年限を早く失っていき建築も多い。一方都市空間を考えると、個々の建築は、道路、公園等の公共空間と併せて、新日の建築が混在しながら、環境を構成するエレメントとして見ることができ

る。そこで建築を社会的資産の一つとして捉え、当初の用途に新しい機能を付加したり、全く別の機能を設定するなどして、それに見合う空間を挿入することにより、都市と建築、建築と人の新しい関係性を考えてみたい。各ユニットで課題として設定した建築物(場所)は以下の通りである。

担当＝若色 峰郎

【課題】交通博物館／千代田区須田町

担当＝本杉 省三

【課題】神奈川県立音楽堂(前川國男)／横浜市西区紅葉ヶ丘

担当＝小泉 雅生 (P.76)

【課題】郊外型の戸建住宅地

担当＝水谷 碩之 (P.77)

【課題】神奈川県立近代美術館(坂倉準三)／鎌倉市雪ノ下